

7月29日「JAL退職者の交流集会」の総意で「安全第一」の再建についての提言をまとめ日本航空宛送付しましたので報告します。

2011年8月2日

日本航空株式会社 社長 大西 賢 殿

「安全第一」の再建についての提言

私たち「JAL退職者懇談会」は「JAL企業年金の改定について考える会」を発展的に引き継ぎ、JAL退職者の福祉向上と共にJALの安全運航の確立による発展を願っています。

稲盛会長は「利益なくして安全なし」「採算性第一主義」の理念を唱え「ベテラン乗務員の整理解雇」を行いました。

現場では大幅賃金抑制や乱暴に労働条件が切り下げられチームワークやモチベーションが低下しています。

私たちは今までのJALには見られなかったこうした事態を憂えています。

JALは公共交通機関として航空法にもとづき国民利用者の立場に立って「運航の安全」すなわち「乗客の生命を守る」ための社会的責任を負っており、安全運航はJALにとって存立基盤です。

7月29日に私たちが開催した「JAL退職者の交流集会」では整備、乗員、客乗の職場の「安全問題」「労働実態」の深刻な状況と日常的に安全トラブルが起きている状況も報告されました。

こうした中、現場の労働者は困難な職場条件のもとでも安全運航のために全力をあげています。

現役の航空労働者が安全運航の職務を確信を持って全うできるよう、「JAL退職者の交流集会」の総意として以下のようにお伝えします。「安全第一」の再建に反映されることを願います。

「記」

- 1, 安全を無視した「ベテランパイロット・客室乗務員の不法な整理解雇強行」は国際的にも批判されており、直ちに撤回すること。
- 1, 安全アドバイザリーグループの提言を生かし、チームワークやモチベーションを壊す「賃金抑制」「労働条件切り下げ」「コスト削減のための整備部門の分社化」などは見直しを行うこと。
- 1, 安全運航にとって欠かせない技術の伝承や経験の蓄積ができるよう、定年まで安心して働ける退職後の「企業年金」「健康保険」「EF」などの制度を維持させること。

以上

「JAL退職者懇談会」